

2026年4月6日

井口 譲二

意見書

本日は、所用により、委員会を欠席することになり、大変、申し訳ありません。事務局資料を踏まえ、意見書を提出させていただきます。前回同様、資本市場の視点で、意見書を提出させていただければと思いますので、よろしく願い申し上げます。

(我が国が目指すべき姿について)

- ・製品・技術の観点で、クラウド・データセンター、データプラットフォーム、サイバーセキュリティなどが取り上げられていることについて、賛同いたします。資本市場でも、注目されているところであり、今後、重要な分野になると考えております。
- ・投資家として、注目したく思いますのは、ロードマップにある、製品・技術が整った中で、日本企業が、どのように企業価値向上に生かしていくのか(いけるのか)、というところになります。ロードマップにあります、製品・技術を日本企業が生かし、国際競争力の向上につなげることが、日本国内での雇用増加、そして、(多くの企業が上場しておりますので)日本の資本市場の活性化がつながるからと考えるからです。
- ・一方、(ご存じのことと思いますが)資本市場が過剰反応している部分もあると思いますが、近年のAIの進展とともに、こういった製品・サービスを積極的に活用していくことが期待される、日本のIT関連企業の株価は大幅に下落しております。資本市場では、これらの企業が、AIの進展に対応できるのかを確認しているところと考えます。
- ・また、前回、申し上げましたように、私は、経済産業省様「DX 銘柄評価委員会」の委員をさせていただいており、企業のDXへの取り組みを、詳細に見る機会も多いですが、DXからAXへと急速に環境が変化する中、評価される企業群も変化していると、今年の評価を通じ、感じております。
- ・もちろん、これは、日本企業だけの事象ではないですが、AIの進化とともに、企業の競争力・企業価値創造力も大きく変化することを示していると理解しております。従って、すでに、一部、ロードマップの中でも、とりあげていただいておりますが、日本企業の競争力の底上げの施策も、これまで以上に求められるものと考えております。

・前回、申しあげましたことと重なるところもありますが、

- ▶ ロードマップにある製品・技術を活用できる「AX 人財育成の制度整備」(企業のビジネスモデルに対応した独自の部分ではなく、共通部分)
- ▶ AX リテラシを持った外部人財の活用をより可能とする「ジョブ型人事制度」の導入促進
- ▶ 日本企業の対応力を底上げする観点で、経済産業省様「デジタルガバナンス・コード 3.0」の改訂 (AX の観点を入れる)
- ▶ 経済産業省様「DX 銘柄評価委員会」を通じた、AX への取り組みの見える化と、日本企業への啓蒙活動

などが、挙げられると考えております。

(最後に)

- ・当意見書で申しあげたことは、すでに、ロードマップに織り込まれている事項もありますし、ロードマップの対応外の領域になることもあるとは思いますが、資本市場の視点で、日本企業の競争力(対応力)向上の観点も欠かせないと考え、意見、申しあげさせていただいた次第です。
- ・ロードマップが実現し、日本企業の競争力向上、日本の資本市場の活性化につながることを期待しております。

よろしく願い申し上げます。

以上